

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生3・4年の部 優秀賞

## 母への思い

蕪城小学校四年

佐野さの

心音みお

わたしは、二〇〇七年十一月二十五日九時二十分にお母さんのおなかの中から生まれてきました。

小さいころからあまやかされていて、ずっと、お母さん、お父さんの事が大好きでした。一才になったころに、お母さんとお父さんといっしょに遊んだりしてすごく楽しかったです。また、もどりたいなと思います。

一年生になったころ、勉強が始まって、初めて会った人がいっぱいいました。でも話しかけて、友達も出来たので学校が大好きになりました。ほとんど勉強はお母さんたちに教えてもらっていました。

お母さんは、いつもお手伝いをするとぜったいに、「ありがとう。おつかれさま。」

と、いつてくれます。それがすごくうれしくて、

「もつとお手伝いしよう、お母さんのためならなんでもしよう。」  
と、思います。お手伝いは、お母さんたちにとつて、すごくうれしいことだと思いました。お母さんのためにずつとお手伝いをつづけていきたいです。

お母さんは、料理が上手です。初めて作った料理でもちようせんしていて、勇気があるなと思うとすぐ感じました。どうして、こんなに作れるのだろう、どうしてこんなに料理が上手なんだろうと思つて、少しだけお母さんにおしえてもらつていたりもしました。みんなより教えてもらつていたので、前よりも上手になつていると思うけど、まだまだ教えてもらつて、もつと上手になりたいです。

わたしの、お母さんの自まんのところは、いつも仕事をがんばつているところが一番の自まんです。なぜかという、月、火、水、木、金曜日には全部仕事で、月、火、水、木、金曜日にはほとんど休んでなく、毎日かかさず仕事にいつています。かぜの日は休むけど、かぜでもないので、けんこうのまま、仕事にいつています。お母さんの仕事は、午前七時五十分から午後五時四十分ぐらい仕事をやつています。なので、少しおそいけど宿題をしたり、少しテレビを見ていたりして、すごしています。でもお母さんが帰つてくると

「やつと帰ってきた。」

と言つて、車のところまで走つて行きます。わたしはお母さんに、

「おかえり。」

お母さんはわたしに、

「ただいま。」

と言つてくれます。

日曜日は家族でイオンや他の県につれてつてくれます。つれてつてくれたら、すごく楽しくて、帰りたくなつてしまいました。いとこといっしょに夜ごはんを食べている時もすつごくすつごく、楽しくて、「この時間が終わらなければ、いいのに。」

と思います。すぐ終わると

「もう終わった。すごく早いな。」

と思います。けれど、すごく楽しいです。またちがうところに行きたいです。

お母さんは、みんなにやさしくしてくれます。おこつたときはこわいけど、ほとんどは、やさしいお母さんです。一度、お母さんに、

「何で、おこるの？」

と聞くと、お母さんは、

「いい大人になつてほしいから。」

と言つていて、わたしはすつごくうれしくなりました。だから、いい大人になつてお母さんをよろこばせたいです。

わたしは、お母さんにまだ言えてないことや、言えないこともいろいろ、あります。だけど、わたしの自まんのお母さん、大好きなお母さんなのです。こしはずかしいけど自分から、

「いつもありがとう。おつかれさま。」

と言えたらいいと思います。

兄弟に勉強を教えたり、お手伝いをして、みんなに、

「ありがとう。」

といわれるようにがんばります。

お母さん、お仕事おつかれさま。